

# **PRIMERGY オプション製品**

---

## **システム構成図(留意事項編)**

## サーバ監視ソフト ServerViewについて

サーバ監視ソフトServerViewでは以下のような機能があります。

[ Windows Server 2003/Windows2000/WindowsNT ]

項目	ServerView
主な機能	サーバ状態監視 異常通知 電源投入/切断スケジュール(一部未サポートモデルあり) パフォーマンス監視 (CPU負荷率、PCIバス負荷率など)
アラート機能 (異常通知方法)	インターネットメール送信 SNMPトラップ送信 メッセージボックス(監視対象サーバ上、管理サーバ上) ポケベル プログラム起動 接続クライアントへブロードキャスト
リモートサービスボードサポート	
使用メモリ	16～32MB

サーバ異常検出時のメッセージボックスは、サーバにログオンしていないと表示されません。  
ログオンしていないときに発生した異常は、インターネットメール、SNMPトラップにて通知することができます。  
また、イベントログにて発生を確認することができます。

[ Red Hat Linux ] (Turbolinuxでは使用できません)

項目	Linuxサーバ上	監視用Windows端末
主な機能	サーバ状態監視 異常通知 * Web Extension使用による	サーバ状態監視 電源投入/切断 スケジュール運転設定 * モデルによる パフォーマンス監視 (CPU負荷率、PCIバス負荷率など) しきい値マネージャは使用できません。
アラート機能 (異常通知方法)	インターネットメール送信 SNMPトラップ送信	インターネットメール送信 SNMPトラップ送信 メッセージボックス ポケベル プログラム起動 接続クライアントへブロードキャスト
リモートサービスボードサポート		-
使用メモリ	32MB以上	16～32MB

\*LinuxサーバよりSNMPトラップを受信しての処理となる

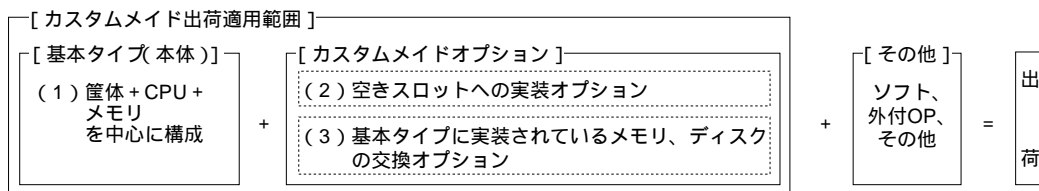
## カスタムメイド出荷について

カスタムメイド出荷とは、ハードウェアの標準構成をメモリ/ディスク等のオプションごとにお客様の仕様に合わせて追加/変更し、本体に実装して出荷することのできる形態です。

カスタムメイド出荷により、お客様のシステム規模/予算にあった最適なシステム構成での導入が可能となります。

## 1. カスタムメイド出荷対象製品の製品構成について

カスタムメイド出荷対象製品の製品構成は、「基本タイプ(本体)」と「カスタムメイドオプション」から構成されます(下図参照)。それ以外の製品に関しては、従来通り、製品単位で出荷されます。



## [ カスタムメイド適用製品一覧 ]

## (1) 基本タイプ(本体)

ECONEL 40/TX150 S2/TX200/TX600/RX100 S2/RX200/RX300/RX800/BX600の全タイプが対象となります。  
(TX150FT S2/TX200FT/オールインワンタイプを除く。)

## (2) カスタムメイドオプション: 空きスロットへの実装オプション

PRIMERGY専用の内蔵オプションが対象となります。(注: FMVとの共通製品等を除く。)

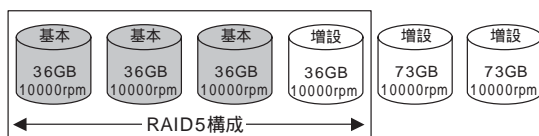
## (3) Linuxインストール代行サービスバンドルタイプ

Linuxインストール代行サービスバンドルタイプは一部オプションのみカスタムメイド対象となります。適用可能オプションは各本体樹系図の「Linuxインストール代行サービスバンドルタイプのカスタムメイド対応について」を参照下さい。

## 2. アレイタイプ(RAID5構成)におけるオプションHDDのカスタムメイド出荷について(オールインワンタイプを除く)

アレイタイプ(RAID5構成)でオプションHDDを手配した場合、基本HDD、および基本HDDと同一容量/同一回転数/同一型名のオプションHDDはRAID5で構成されます。それ以外のオプションHDDは初期化されておりませんので初期化処理を行ってからご使用ください。

[例]



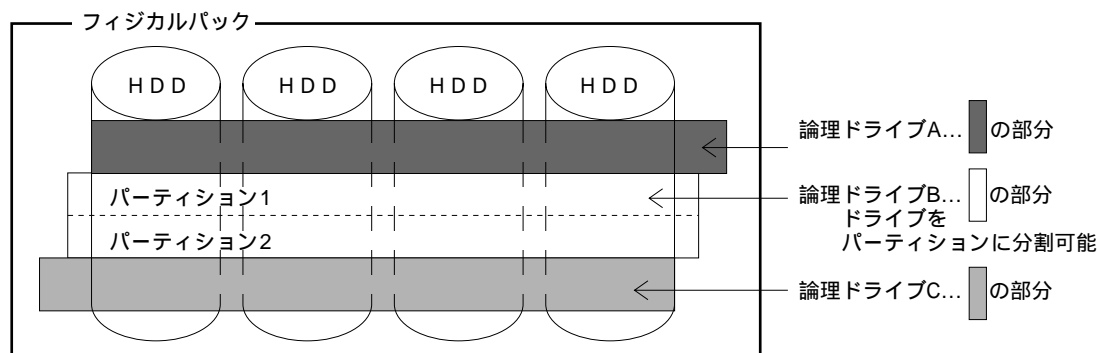
## 3. ディスクレスタイプ/HDタイプにおけるカスタムメイド出荷について

ディスクレスタイプおよびHDタイプでOSをインストールする際には、予定外の装置に間違ってOSがインストールされることを事前に防ぐため、OSインストール先のSCSIハードディスク以外のSCSIオプション装置(ハードディスク、内蔵/外付バックアップ装置、光磁気ディスクユニット等)を一旦取り外し、OSインストール終了後に再接続する必要があります。カスタムメイド手配時にはご注意願います。

## ハードディスク関連事項

### ディスクアレイ構成の考え方

- ・フィジカルバック・・・1つのRAIDを構成する物理的なHDDの集まり。
- ・論理ドライブ・・・ネットワークOSがドライブとして認識できるドライブ。
- ・パーティション・・・ネットワークOSで設定する論理ドライブを分割したアクセス論理単位。

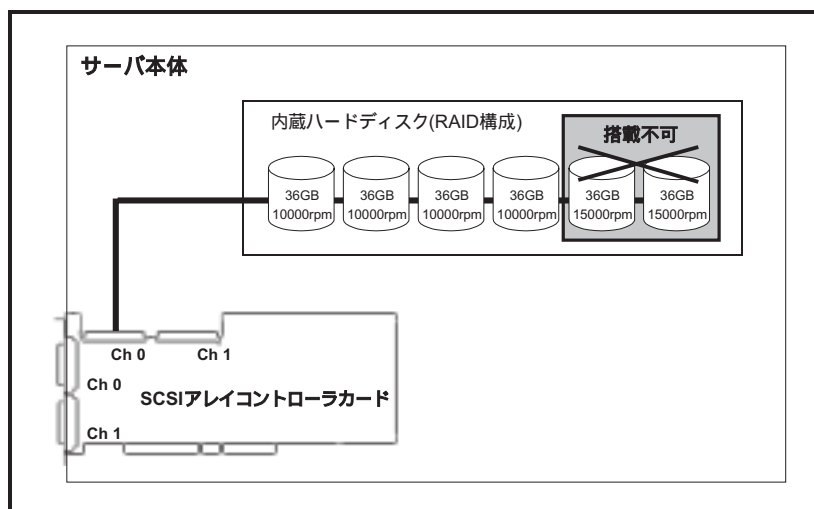


### < 構成規則について >

- (1) フィジカルバックは必ず同じ型名のハードディスクユニットで構成してください。
- (2) フィジカルバックを構築する場合、合計サイズが2TBを越えないように設定してください。  
一つの論理ドライブの最大サイズは、2TBとなります。(ただし、Linuxにおいては一つの論理ドライブの最大サイズは1TB未満となります。)  
PG-140C/140CL/142B/142Cの場合は、フィジカルバック内に複数の論理ドライブを作成できません。  
フィジカルバック容量と論理ドライブ容量は常に同一となります。
- (3) 一つのフィジカルバックを構成するハードディスクユニットの台数は以下のとおりです。
 

・ RAID0	(性能向上のために、データを複数ディスクへ分割して書込む方式)	— 2 ~ 16台	【 論理ドライブの実効データ容量は 接続したディスク容量の総和 】
・ RAID1	(信頼性向上のために、ディスクを二重化し同一データを書込む方式)	— 2台	【 論理ドライブの実効データ容量は 接続したディスク容量の1/2 】
・ RAID5	(信頼性向上のために、データを分割しパリティを加えて書込む方式)	— 3 ~ 16台	【 論理ドライブの実効データ容量は (接続したディスク台数 - 1) 台分 】
・ RAID6/0+1	(信頼性向上のために、データを二重化かつ分割して書込む方式)	— 3 ~ 16台	【 論理ドライブの実効データ容量は 接続したディスク容量の1/2 】

PG-140C/140CL/140D/141C/142B/142C/142EのRAID0+1は4 ~ 16台で偶数のみ構成可。  
1台のハードディスクでフィジカルバックを構成することはできません。
- (4) 一つのフィジカルバックを複数の論理ドライブに分割した場合の各論理ドライブのRAIDレベルは同じもののしか設定できません。
- (5) 一つのフィジカルバックは必ず、同一のアレイコントローラカードにつながるハードディスクで構成してください。
- (6) 1枚のアレイコントローラカードで複数のフィジカルバックを設定することが可能です。但し、ハードディスクユニットは以下の条件を満たす必要があります。
  - ・ フィジカルバックは同型名のハードディスクで構成する。
  - ・ 複数のフィジカルバックを同容量のハードディスクで構成する場合は、すべて同型名のハードディスクで構成する。
- (7) 1枚のアレイコントローラカードでRAIDレベルの異なる複数のフィジカルバックを混在させた設定も可能です。
- (8) 異なる型名のハードディスクを使用して複数のフィジカルバックを構成し、ホットスペアディスクを設定する場合には各々のフィジカルバックに対して、同型名のホットスペアディスクを最低1台設定して下さい。
- (9) 1枚のアレイコントローラカード内で、同容量でかつ回転数の異なるハードディスクを混在させることはできません。



## ハードディスクキャビネット / SCSIアレイコントローラカード / SCSIカードの注意事項

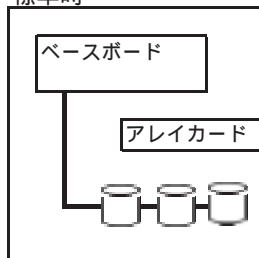
## ハードディスクキャビネットについて

OSは必ずサーバ本体に内蔵ハードディスクにインストールする必要があります。

## SCSIケーブル接続機構(PGBCBLS012)について

TX200/TX600/RX300/RX800のディスクレスタイプにSCSIアレイコントローラカードをカスタムメイドで手配する場合、SCSIケーブル接続機構(PGBCBLS012)が必須となります。ただし、TX200でPGB140C、RX300でPGB140CLを手配する際はSCSIケーブル接続機構は不要です。

## 標準時



SCSIアレイコントローラカードをカスタムメイドで手配しても、SCSIケーブルはオンボードSCSIに接続されています。

## SCSIケーブル接続機構適用時



SCSIケーブル接続機構を適用するとSCSIケーブルはSCSIアレイコントローラカードに接続されます。

## SCSIアレイコントローラカード[PG-140C / 140CL]について

SCSIアレイコントローラカードはサーバ本体1台につき1枚のみ搭載可能です。  
SCSIアレイコントローラカードに接続可能なハードディスクはサーバ本体に内蔵ハードディスクのみです。  
サーバ本体に内蔵ハードディスクはサーバのオンボードSCSIを使用して接続します。

## SCSIアレイコントローラカード[PG-140D]について

SCSIアレイコントローラカードはサーバ本体1台につき1枚のみ搭載可能です。  
SCSIアレイコントローラカードに接続可能なハードディスクはサーバ本体に内蔵ハードディスクのみです。  
サーバ本体に内蔵ハードディスクはサーバのオンボードSCSIを使用して接続します。  
RAID0/1/5において、フィジカルバックに論理ドライブが1つだけ存在する場合のみフィジカルバックの容量拡張機能が使用可能です。  
(Windows Server™2003/Windows2000のみサポート)

## SCSIアレイコントローラカード[PG-141C / 141CL]について

SCSIアレイコントローラカードはサーバ本体1台につき1枚のみ搭載可能です。  
SCSIアレイコントローラカードに接続可能なハードディスクはサーバ本体に内蔵ハードディスクのみです。  
RAID0/1/5において、フィジカルバックに論理ドライブが1つだけ存在する場合のみフィジカルバックの容量拡張機能が使用可能です。  
(Windows Server™2003/Windows2000のみサポート)

## SCSIアレイコントローラカード[PG-140C / 140CL / 142B / 142C]について

以下を制限とします。(制限解除時期：後報)  
・Expand Array (フィジカルバックの容量拡張)  
Linux環境ではRX200においてPG-140CLとPG-142Bの同時搭載はできません。  
PG-142EとPG-142B / 142Cの同時搭載はできません。  
PG-142B / 142CでPRIMERGY SX30 (ハードディスクキャビネット) に接続する場合、PG-142B / 142Cおよび内蔵ハードディスクユニット (Ultra320 SCSI対応) はUltra160 SCSIの転送速度で動作します。  
PG-142B / 142CでPRIMERGY SX30 (ハードディスクキャビネット) に接続する場合、PRIMERGY SX30に内蔵ハードディスクユニット-147GB (PG-HDH41K) を搭載して使用することはできません。

## SCSIアレイコントローラカード[PG-142E]について

RAID0/1/5において、フィジカルバックに論理ドライブが1つだけ存在する場合のみフィジカルバックの容量拡張機能が使用可能です。  
(Windows Server™2003/Windows2000のみサポート)  
PG-142B / 142Cとの同時搭載はできません。

## SCSIアレイコントローラカード[PG-144C]について

異なる容量のハードディスクを使用して複数のフィジカルバックを構成し、ホットスワップディスクを設定する場合は、最も小さな容量のハードディスクに対してのみ設定可能です。  
PG-144CでPRIMERGY SX30 (ハードディスクキャビネット) に接続する場合、PG-144Cおよび内蔵ハードディスクユニット (Ultra320 SCSI対応) はUltra160 SCSIの転送速度で動作します。

:接続可能, x:接続不可

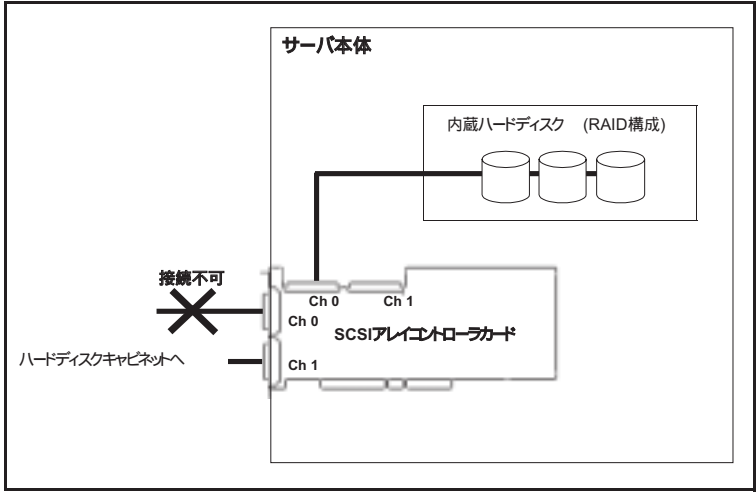
[illegible][illegible][illegible]

\*1: 1枚のSCSIアレイコントローラカードで内蔵ハードディスクおよびハードディスクキャビネットを同時接続する場合は、「SCSIアレイコントローラカードの内蔵ハードディスク / ハードディスクキャビネット同時接続について」を参照下さい。

\*2: 搭載できない機種があります。詳細は「樹系図」を参照願います。

SCSIアレイコントローラカードの内蔵ハードディスク / ハードディスクキャビネット同時接続について

1枚のSCSIアレイコントローラカードで内蔵ハードディスク / ハードディスクキャビネットを同時接続する場合には、内蔵ハードディスクとハードディスクキャビネット接続用にそれぞれチャネルを分ける必要があります。同一チャネルにおける内蔵ハードディスク / ハードディスクキャビネットの同時接続はできません。またホットスワップディスクを設定する場合は内蔵ハードディスクとハードディスクキャビネット接続用にそれぞれ別のSCSIアレイコントローラカードが必要となります。



SCSIカード[PG-128/130L]について

本カード 1 枚に外付SCSI装置と内蔵SCSI装置を同時に接続することはできません。その際は、カードを分けて接続してください。  
本カード 1 枚に接続できる外付けSCSI装置の台数は、  
( 1 ) バックアップキャビネットを除く外付けSCSI装置は最大 2 台までのデジーチェーン接続が可能です ( LTOライブラリ装置、カートリッジテープ装置はデジーチェーン接続不可 )

SCSIカード[PG-129/129B]について

：本カードは内蔵SCSI装置にのみ接続可能です。

SCSIアレイコントローラカードのサポートOS

SCSIアレイコントローラカードのサポートOSは以下のとおりです。

:サポート、x :未サポート

OS	SCSIアレイコントローラカード								
	PG-140C	PG-140CL	PG-140D	PG-141C	PG-141CL	PG-142B	PG-142C	PG-142E	PG-144C
Windows Server™ 2003, Standard Edition									
Windows Server™ 2003, Enterprise Edition			x	x	x				
Windows®2000 Server									
Windows®2000 Advanced Server			x	x	x				
WindowsNT®Server 4.0		x	x	x	x	x		x	x
WindowsNT®Server 4.0, Enterprise Edition		x	x	x	x	x		x	x
Windows® Small Business Server 2003		x			x	x	x	x	x
Small Business Server 2000	x	x	x	x	x	x	x	x	x
Red Hat Linux 8.0 (*1)			x	x	x				x
Red Hat Linux 9 (*1)			x	x	x				x
Red Hat Enterprise Linux ES (v. 2.1) (*1)			x	x	x				x
Red Hat Enterprise Linux ES (v. 3) (*1)									x
Red Hat Enterprise Linux AS (v. 2.1) (*1)			x	x	x				x
Red Hat Enterprise Linux AS (v. 3) (*1)			x	x	x				x
Turbolinux 8 Server		x	x	x	x	x		x	x

\*1: 既にLinuxインストール代行サービス/バンドルタイプをご使用中のお客様が本SCSIアレイコントローラカードを増設される場合、本体に同梱されている(ドライバおよびRAID管理ツール) をご使用ください。  
またHDタイプ/ディスクレスタイプにおいてLinuxをご使用される場合、必要なドライバおよびRAID管理ツールは FMWORLD .NET よりダウンロードしてください。

## システム構成図留意事項

## 接続可能なハードディスクキャビネット数について

ハードディスクキャビネット			ECONEL 40	TX150 S2	TX200	TX600	RX100 S2	RX200	RX300	RX800	BX600
	型名	チャンネル数									
PRIMERGY SX30 (ラックマウント)	PG-R1DC7	2	-	-	2	8 (*1)	-	2	2	5	-
PRIMERGY SX30 (ベディスタル)	PG-DC107	2	-	-	2	8 (*1)	-	-	-	-	-

\*1) Linuxで使用する場合は、最大4台までの接続となりますのでご注意ください。

## S.M.A.R.T.機能について

S.M.A.R.T.対応

: S.M.A.R.T.対応, x : S.M.A.R.T.未対応, - : 接続できません

接続形態	標準搭載 SCSIアレイ コントローラ	内蔵ハードディスクユニット											ハードディスクキャビネット			
		SCSIカード		SCSIアレイコントローラカード									SCSIアレイコントローラカード			
		PG-129	PG-130L	PG-140C	PG-140D	PG-140CL	PG-141C	PG-141CL	PG-142B	PG-142C	PG-142E	PG-144C	PG-142B	PG-142C	PG-142E	PG-144C
ECONEL 40			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
TX150 S2		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
TX200		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
TX600		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		x
RX100 S2		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RX200		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RX300		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RX800		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
BX600		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注) S.M.A.R.T.機能にはServerViewが必要です。S.M.A.R.T.機能はLinuxでは未サポートです。

## メモリ関連事項

## OSにおける使用可能メモリ容量について

OSにより使用可能なメモリ容量が異なりますので、ご注意ください。使用可能メモリ容量は以下の通りです。

(搭載可能なメモリ容量およびサポートOSは機種により異なります。)

OS	使用可能メモリ容量
Windows Server™ 2003, Standard Edition	4GB
Windows Server™ 2003, Enterprise Edition	32GB
Windows®2000 Server	4GB
Windows®2000 Advanced Server	8GB
Windows® Small Business Server 2003	4GB
Small Business Server 2000	4GB
Red Hat Linux 8.0	12GB
Red Hat Linux 9	12GB
Red Hat Enterprise Linux ES (v. 2.1)	4GB
Red Hat Enterprise Linux ES (v. 3)	8GB
Red Hat Enterprise Linux AS (v. 2.1)	12GB
Red Hat Enterprise Linux AS (v. 3)	12GB
Turbolinux 8 Server	64GB

## S C S I 装 置 ( バ ッ ク ア ッ プ ) 関 連 事 項

## バックアップ装置のサポートOSと使用するソフトウェア一覧

## &lt; Windows関連 &gt;

バックアップ装置	装置型名	規格	記憶容量 (GB)	処理速度 (MB/s)	Windows NT® Server 4.0/ Enterprise Edition		Windows®2000 Server/ Advanced Server			Small Business Server 2000	Windows Server™ 2003, Standard Edition/Enterprise Edition			Windows® Small Business Server 2003	備考
					NTBACKUP	BrightStor™ ARCserve® Backup v9	NTBACKUP	BrightStor™ ARCserve® Backup v9	BrightStor™ ARCserve® Backup Release 11	NTBACKUP	NTBACKUP	BrightStor™ ARCserve® Backup v9	BrightStor™ ARCserve® Backup Release 11	NTBACKUP	
VXA 装置	PG-VX201	VXA-2	80	6.0	Server Start		Server Start			Server Start	Server Start			Server Start	・定期的なクリーニング必須
LTO 装置	PG-LT101	LTO (Ultrium1)	100	7.5											・高信頼性が必要な基幹業務に適している
	PGSLT101														
	PG-LTL102	LTO (Ultrium1) ライブラリ	1000	15	x		x			x					・高信頼性が必要な基幹業務に適している
	LT13**A*		3000   6000								x			x	・自動バックアップ処理可能
	LT13**B*	LTO (Ultrium2) ライブラリ	6000   12000	30											
DAT 装置	PG-DT501	DAT72	36	3.0	Server Start		Server Start			Server Start				Server Start	・定期的なクリーニング必須
	PG-DT502			3.5	x	x	Server Start(*1)	x	(*1)	x	Server Start	x			
	PG-DT502D						Server Start							x	
	GP5SDT401	DDS4	20	3.0	装置添付ドライバ使用										
	PG-DTA102	DDS4 オートチェンジャ	120	3.0	x		x			x	x			x	・定期的なクリーニング必須 ・自動バックアップ処理可能
	GP5SDTA102														

## &lt; Linux関連 &gt;

バックアップ装置	装置型名	規格	記憶容量 (GB)	処理速度 (MB/s)	Red Hat Enterprise Linux				Red Hat Linux 9		Red Hat Linux 8.0		Turbolinux 8 Server	備考		
					AS (v. 3)/ ES (v. 3)		AS (v. 2.1)/ ES (v. 2.1)									
					NetVault 7	BrightStor™ ARCserve® Backup v9	NetVault 7	BrightStor™ ARCserve® Backup v9	NetVault 7	BrightStor™ ARCserve® Backup v9	NetVault 7	BrightStor™ ARCserve® Backup v9	NetVault 6.5 Turbolinux Edition			
VXA 装置	PG-VX201	VXA-2	80	6.0							×	×		・定期的なクリーニング必須		
LTO 装置	PG-LT101	LTO ( Ultrium1 )	100	7.5										・高信頼性が必要な基幹業務に適している		
	PGSLT101															
	PG-LTL102	LTO ( Ultrium1 ) ライブラリ	1000	15										×	×	×
	LT13**A*	3000   6000														
	LT13**B*	LTO (Ultrium2) ライブラリ	6000   12000	30												
DAT 装置	PG-DT501	DAT72	36	3.0										・定期的なクリーニング必須		
	PG-DT502			3.5	(*2)	(*2)	×	×	×	×	×	×	×			
	PG-DT502D															
	GP5SDT401	DDS4	20	3.0												
	PG-DTA102	DDS4 オートチェンジャ	120	3.0									×	・定期的なクリーニング必須 ・自動バックアップ処理可能		
	GP5SDTA102															

記録容量/処理速度は非圧縮時の値。

NTBACKUPでバックアップした場合、各装置の処理速度よりも遅くなる場合があります。処理性能を重視される場合にはARCserveの使用をお勧めします。  
「ServerStart」はServerStart CD内のデバイスドライバを使用することを示します。

\*1) Windows®2000 Serverのみサポート。

\*2) Red Hat Enterprise Linux ES (v. 3)のみサポート。



## Linux関連事項

## Linuxインストール代行サービスバンドルタイプについて

Linuxインストール代行サービスバンドルタイプでは、Linux OSをお客様に代わってインストールするサービス[インストール代行サービス]をPRIMERGYにバンドルして出荷いたします。

## Linuxシステムにおけるバックアップソフト

Linuxにおいてバックアップ装置をご使用になる際には、以下のソフトウェアがご使用いただけます。

ディストリビューション	単体バックアップ装置	ライブラリ系バックアップ装置
Turbolinux 8 Server	NetVault 6.5 Turbolinux Edition	
Red Hat Linux 8.0	NetVault 7/BrightStor™ ARCserve® Backup v9	NetVault 7/BrightStor™ ARCserve® Backup v9
Red Hat Linux 9	NetVault 7/BrightStor™ ARCserve® Backup v9	NetVault 7/BrightStor™ ARCserve® Backup v9
Red Hat Enterprise Linux ES (v. 2.1)	NetVault 7/BrightStor™ ARCserve® Backup v9	NetVault 7/BrightStor™ ARCserve® Backup v9
Red Hat Enterprise Linux ES (v. 3)	NetVault 7/BrightStor™ ARCserve® Backup v9	NetVault 7/BrightStor™ ARCserve® Backup v9
Red Hat Enterprise Linux AS (v. 2.1)	NetVault 7/BrightStor™ ARCserve® Backup v9	NetVault 7/BrightStor™ ARCserve® Backup v9
Red Hat Enterprise Linux AS (v. 3)	NetVault 7/BrightStor™ ARCserve® Backup v9	NetVault 7/BrightStor™ ARCserve® Backup v9

## Linuxシステムにおけるメモリ搭載、ブロックデバイスの使用可能サイズについて

Linuxシステムではディストリビューションにより最大搭載メモリ容量、ブロックデバイスの使用可能最大サイズが以下になります。

ディストリビューション	最大搭載メモリ容量	ブロックデバイスの使用可能最大サイズ
Turbolinux 8 Server	64GB	1TB未満
Red Hat Linux 8.0	12GB	1TB未満
Red Hat Linux 9	12GB	1TB未満
Red Hat Enterprise Linux ES (v. 2.1)	4GB	1TB未満
Red Hat Enterprise Linux ES (v. 3)	8GB	1TB未満
Red Hat Enterprise Linux AS (v. 2.1)	12GB	1TB未満
Red Hat Enterprise Linux AS (v. 3)	12GB	1TB未満

## ディスクレスタイプ/HDタイプのサポートについて

ディスクレスタイプ/HDタイプにおけるLinux関連情報については、弊社HP(<http://www.fmworld.net/biz/primergy/linux/>)を参照下さい。また、サポートを必要とされるお客様につきましては、別途SupportDeskを契約して下さい。

サポート対象ディストリビューション( )

- Turbolinux 8 Server
- Red Hat Linux 8.0
- Red Hat Linux 9
- Red Hat Enterprise Linux ES (v. 2.1)
- Red Hat Enterprise Linux ES (v. 3)
- Red Hat Enterprise Linux AS (v. 2.1)
- Red Hat Enterprise Linux AS (v. 3)

サポートディストリビューションは、本体装置により異なります。

## LinuxシステムにおけるRAID構成について

- ・RX200においてPG-140CLとPG-142Bの同時搭載はできません。

## Linuxシステムにおけるスケジュール運転機能について

- ・RX800においてUPSによるスケジュール運転は未サポートです。スケジュール運転を行う場合はリモートサービスボード(標準搭載)による設定が必要です。ただし、停電時は手動でサーバの電源を投入する必要がありますのでご注意願います。